

観阿弥(観世清次) 能役者。初代の観世大夫で能楽シテ方観世流の始祖。子の世阿弥が"能楽"確立して、名が違った。

かんあみ

鎌倉幕府滅亡1333 = 大和の多武峰近辺で活動したらしい山田猿楽の美濃大夫の養子の三男に生まれる。長兄が宝生大夫。

南北朝分裂・1336 = 3歳 :

五山制定・・・1342 = 9歳 :

多武峰寺(談山神社)・興福寺・春日神社の神事芸能に参勤する義務と権利を持つ大和猿楽四座の一つの(結崎座)(創立は鎌倉中期以前か)に所属し、早くから同座の能役者の棟梁だったらしい。

田楽本座の一忠を模範として芸を磨き、後述する音曲改革などで台頭してきた。

・・・1351 = 18歳 :

観応の擾乱終1352 = 19歳 :

足利尊氏没・1358 = 25歳 :

・・・1360 = 27歳 :

本拠の大和以外の地でも活動し、

足利義満將軍1368 = 35歳 : この頃、猿楽に曲舞を取り入れ、大和音曲を創始。

・・・1369 = 36歳 :

・・・1371 = 38歳 : 摂津の須磨で観世大夫が勳進能を催した旨の記録もある。\*この前後の醍醐寺での演能以来京洛に名声が高まり、京極道誉や海老名南阿弥ら有力者にも引き立てられる。

観世父子登場1374 = 41歳 : \*子の世阿弥を伴って京都の今熊野で猿楽能を催した際、將軍足利義満が見物、以来、親子そろって、絶大な後援を受けることになり、天下に名声を挙げ、観世大夫が將軍のお抱え役者の地位を占めるに至る。

室町御所始・1378 = 45歳 : この頃、\*{結崎座}を{観世座}と改称、

義満親政始・1379 = 46歳 :

還俗して清次に戻り、不定だった興福寺の新猿楽を2月上旬に固定するのに寄与したりして、

・・・1384 = 51歳 : \*駿河へ下り、間神社で老木の花の咲くごとき名演を見せたが、同地で没した。